

小石川高校ラグビー部

後援会会報 Vol.3

発行責任者 後援会理事長 斎藤守弘 平成 15 年 12 月発行

公式ホームページ <http://www.geocities.co.jp/Athlete-Samos/8115/>

目次

ご挨拶

・後援会会長

川口明 (昭和 42 年卒) 1

平成 15 年度総会のご報告

・総会承認事項..... 2

・総会の模様

川崎智康 (平成 14 年卒) 2

小石川高校ラグビー部より

・平成 15 年度秋季大会結果・観戦記

斎藤十五 (平成 15 年卒) 2

・秋季大会を振り返って

多久和真 (1 年生) 3

佐藤貴子 (1 年生マネージャー) 4

・引退する 3 年生より一言

糸哲雄 (3 年生) 5

木村啓介 (3 年生) 5

中西諒 (3 年生) 5

小池夏夫 (3 年生) 6

富山未央 (3 年生マネージャー) 6

矢野悠 (3 年生マネージャー) 7

・引退する 3 年生へ一言

藪上和夫 (顧問・英語科教諭) 7

國上真由美 (2 年生マネージャー) 7

・新チーム発足

山田憲永 (顧問・体育科教諭) 8

藤沼光太 (主将 2 年生) 8

竹田健志 (FW 副将 2 年生) 9

後藤史孝 (BK 副将 2 年生) 9

連載 OB コラム

・「7 月 12 日に参加して」

石森愛彦 (昭和 52 年卒) 10

理事会よりお知らせ

・小山和泰前会長の小石川賞受賞のお知らせ 11

・学年幹事設置のお知らせ..... 11

・公式ホームページ紹介..... 11

・平成 15 年度会費納入のお願い..... 11

・後援会メーリングリスト参加のお願い..... 12

・住所不明者..... 12

・編集後記..... 13

総会資料

・総会資料..... 14

ご挨拶

後援会会長 川口明 (昭和 42 年卒)

今年は 4 年に 1 度のラグビーワールドカップの年に当り、現在オーストラリアで盛んに試合が行われております。残念ながら日本は 1 勝も出来ずに敗退してしまいましたがそれでも選手たちは

体力的に勝る相手に対して良くタックルし、又良く走り戦ったと思います。勝負事は負けるより勝つに越した事はありませんが、立派に戦った監督、選手の皆さんは胸を張って帰ってきてほしいと思います。

小石川高校のラグビー部にしても強豪校と呼

ばれるチームと比べた場合、ワールドカップにおける日本のチームと同じ状況ではないかと思えます。しかし、だからと言って「負けても良いや」と言うものでもない訳です。強豪校に対し、体力的に劣る小石川がそれなりに戦い、そしてそれなりの戦績を残して来れたのは良く考えて練習し試合をしてきたからだと思えます。これから常に考え、短い時間でも集中して効果的な練習をし、どうやったら勝てるかを必死に考え、練習するメンバーとチームになってほしいと切に思います。皆様のご協力をお願い致します。

(記：平成 15 年 11 月 7 日)

平成 15 年総会のご報告

総会承認事項

去る 7 月 12 日、小石川高校において平成 15 年度後援会定期総会が行われました。14 ページ以降に記載されております平成 14 年度決算、平成 15 年度予算及び後援会役員体制につきまして、総会において承認されましたのでご報告いたします。

総会の模様

川崎智康 (平成 14 年卒)

去る 7 月 12 日、平成 15 年度小石川高校ラグビー部後援会総会が行われました。当日は天候にも恵まれ、総会に先だって行われた OB 戦では、下は大学生から上は社会人の中堅までの幅広い年齢層の OB が、現役生と対戦しました。OB チームは vs 現役生チーム、vs1 年生チームともにほぼ交替なしで戦うことになりました。OB チームが意地を見せて快勝しましたが、現役生も数々のプレーの中に光るものがありました。また、OB 戦後のグラウンドでは、去年までラグビー部の顧問をなさっていた高梨先生に後援会から感謝の気持ちを込めて記念品が贈られました。

その後校舎 3 階の会議室で行われた総会、懇親会には、約 70 名もの OB が、お忙しい中出席してくださいました。今年の総会は、後援会としての体制が整ってきたこともあり、昨年よりもス

ムーズに議事を進行する事が出来ました。懇親会では、卒業したての若手から年配の OB まだがふれ合ったり、同世代の人達同士で昔話を酒の肴に同期会の様になっていたり、また高梨先生や藤田先生と元教え子とで現状報告をし合ったりと、実に有意義な時間を過ごす事が出来た様に思います。今回の懇親会では、初の試みとして、現役生の父兄の方々も参加され、クラブ活動への理解を深めていらっしゃいました。

小石川高校ラグビー部より

平成 15 年度秋季大会結果・観戦記

(於：江戸川区・東京都立葛西工業高校)

斎藤十五 (平成 15 年卒)

9/28	対都立科学技術高校 29 - 7 (前半 14 - 0、後半 15 - 7)
10/5	対早稲田大学高等学院 13 - 64 (前半 8 - 10、後半 5 - 54)

< 第 1 戦 対都立科学技術高校 >

小石川のボールでキックオフ。開始直後、まだ硬さが抜けないのか少し動きが悪く攻め込まれてしまい、FB 後藤のタックルなど、何とかディフェンスしていた。しかしキャリアバックの後の相手スクラムからのサイド攻撃を HO 紅林がナイスタックルでターンオーバー。そこからつないで一気に相手陣深くまでゲインするも惜しくもタッチに出てしまう。だが、相手がノットストレートの反則を犯し、そのチャンスを縦攻撃から最後は FL 中西がトライ。ゴールも決まり 7 - 0。それからは先制した事でリズムも良くなり攻撃にリズムが出てきた。相手に攻め込まれるシーンもあったが 1 人 1 人が良くタックルしており、トライまでは至らない。逆に攻め手のなくなった相手がキックしたところを FB 後藤がキックでカウンター。チェイスしてボールを奪い右につないで WTB 小池がトライ。ゴール成功で、14 - 0 で前半を折り返す。

後半の開始直後はかなり重要な時間帯だが、開

始早々ノットリリースの反則から相手にトライを奪われる。ゴールも決まり 14 - 7。その後もピンチが続きハラハラさせられる展開が続くが、しのぎきった。相手ミスで得たフリーキックからワイドに展開し、外で余らせてゲイン。ラックから今度は逆に大きく振ってきれいに外に回しトライした。ゴールは外れるも 19 - 7。小石川は更に自陣深くから回し CTB 春日が相手ディフェンスのギャップをつき完全に抜け、最後は 2 対 1 の状況で WTB 横瀬にパスしトライ。ゴール成功。終了間際にはゴール正面のペナルティーで手堅くペナルティーゴールを狙い成功。29 - 7 と言うスコアで勝利した。

小石川はディフェンスできっちり止められた事が勝因だったと思う。相手のサインプレーに乱れる事もなかった。オフェンスでは大きく展開しての攻撃が何度も見られ、外で余らせて勝負できていた。相手がサインプレーにこだわってあまりゲインできていなかったのとは対照的だったと思う。見ている側にとっても気持ちいい試合だった。

< 第 2 戦 対早稲田大学高等学院 >

開始直後まだ試合が落ち着く前にモールを押し込まれてトライされてしまい、ゴールこそ外れたものの応援側は静まりかえってしまった。モールでのトライというのはかなりのショックがあるものだ。選手の心理状況が心配されるころだが、モチベーションは衰えてはいないようだった。相手攻撃はやはりオープン攻撃重視だったが、パスミスが多く、小石川はディフェンスでのプレッシャーが上手くかけられていた。しかしその後、相手ボールのゴール前スクラムから SO がずらしてからの CTB へのすれ違いのパスでゲインされ、ラックからそのままサイドをつかれてトライを許す。ゴール失敗で 10 - 0。一進一退の攻防が続いた後、小石川は自陣での相手ボールスクラムでターンオーバー。右に展開してポイントを作り、クイックで左に展開。SO 島崎が相手のギャップ

を上手くついてゲインし、フォローしてきた選手につないで左に回しすみにトライした。ゴールは外れたもののこのトライで小石川ペースになった。ただし繰り返し攻めるもののトライは取れない。終了間際にはゴール正面でペナルティーを獲得しペナルティーゴールを狙い成功。8 - 10 で前半を折り返す。小石川はビハインドされているもののいい形で前半を終えられ、応援側にもいけるかもしれないというムードが生まれていた。しかし、かなりいい動きを見せていた CTB 春日が負傷してしまい、後半出るか交替するかかなり微妙な状態となってしまう。応急処置をして入れることにしたが、その前に後半が始まってしまい、小石川はバックスが 1 人少ない。そこをつかれて余った WTB に抜かれ、トライされてしまう。かなり歯がゆいトライだった。相手のトライした WTB のスピードはかなりのもので、その後立て続けにトライを許した。また、小石川には疲れが見え始め、2 次、3 次攻撃への対応が遅れ始めカパーも足りなかった。結局その後 6 トライもとられ、ゴールもことごとく成功。小石川は終了間際に攻め込んで小池がトライを奪うが、13 - 64 で敗れた。

前半は善戦したものの後半に力の差を見せ付けられる結果となってしまった。試合中良い所もちろんたくさんあったのだが、途中負傷者が何人も出てしまったり、後半に体力が落ちてしまったりとフィジカル面が足りなかったのではないだろうか。ただ、試合後の選手の表情は悔しさも見られたが、3 年生はやりきったという感じでもあった。3 年生の皆さんお疲れ様でした。

秋季大会を振り返って

「初陣」

多久和真 (1 年生)

対早稲田学院戦後半 15 分くらいだっただろうか、僕は初めて公式戦の舞台に立った。ポジションはフルバック。僕がラグビー部に入ってからずっとやりたかったところだ。練習試合でそれな

りに経験は積んでいたとはいえ、公式戦ともなると訳が違う。心臓はバクバクでかなり緊張していた。

さて、肝心のプレーの方はというと、最悪にもほどがあるようなプレーをしていた。サインを忘れていたり、相手にタックルもできなかったり。もっと最悪だったのが、ノットリリースをして相手のトライの手助けをしてしまったことである。誰かに何か言われると思っていたけれど、気づかなかったのか、見逃してくれたのか、それとも興味がないのか、誰一人として何も言ってこなかった。でも自分で自分の心に文句を言っていた。「ばーか。」

試合中もっとも嬉しかったことは、小池先輩がトライをしたことだ。あの時はチームが一丸となりプレーをしていたような気がする。対早稲田戦で一番チームがまとまっていたと思う。その中で自分も一緒にプレーできて幸せだった。ただ悔いに残るのが、トライ後のコンバージョンキックで外してしまったことだ。山田先輩が蹴るところをわざわざ蹴らしてもらったのに、すごくくやしかった。その試合は結局負けてしまったけれど、今後の小石川ラグビー部にとって良い試合だったと思う。その中で最後に3年生と一緒にプレーできたことは、とても嬉しかった。本当は3年生とまだまだ一緒にプレーをしたかったけれど、この悔しさをバネに今後はもっと自分のプレーに磨きをかけていきたいと思う。

「初めての公式戦を終えて」

佐藤貴子(1年生マネージャー)

9月末、私達1年にとって初めての公式戦が始まりました。今まで試合と言えば、他校との練習試合だけだった私達にとって真新しい経験でした。また、今回の公式戦はこれまで小石川ラグビー部を支えてきて下さった3年生の引退のかかった試合でもありました。ですから、部員もマネージャーも先生も「絶対に勝ちたい!!」とそれぞれ思っていたに違いありません。

第1試合、対科技高戦。科技高とは以前に行った練習試合で敗退・引き分けでしたが、2度試合をただけにある程度の手ごたえはありました。まず、前半が10分程経過したころ、小石川のトライ。その後、もう1トライ。今思うと、3年生がきめて下さったこの2トライには、引退を間近に控えた3年生方の熱い思いが込められていたように思います。後半になり、先に科技高にトライをきめられてしまいましたが、その後は火がついたかのように2つのトライをきめ、ペナルティキックも見事に決めて、29対7という結果の下に試合は終わりました。1年生も“初めての公式戦”という緊張はまるでなかったかのようでした。皆疲れた顔、「やり遂げた」という清々しい顔をしていました。

第2試合、対早稲田学院戦。「やっぱり強そう...」「勝てるのかなあ...」そんな不安は、誰の胸にも少なからずあったと思います。しかし、それよりも「こんなところで負けたくない!」「打倒早稲田学院!!」という思いの方が勝っていたのでしょうか。そんな思いの中、前半開始。始めに2つのトライをきめられましたが、そこでへこたれないのが小石川。その後、1つトライをきめ、さらにペナルティキックもきめて、2点差で前半終了。「これなら勝てる!」そんな希望があふれていました。そして後半。始まってすぐに、早稲田学院トライ。次も。その次も.....。走っても、走ってもきめられてしまう。結果、後半だけで8つのトライをきめられました。ですが、後半ももう終わりごろ、小石川トライ。最後の最後まで諦めずにきめたトライ。そして試合終了。悔しくて泣き出す人もいました。しかし負けは負け。多くの反省点がそれぞれの中にあっただことでしょう。ここで引退する3年生は「後輩達に頑張ってもらいたい。」という思いが。それを受け止めた1・2年生は「次こそは!」という思いが。試合こそ負けてはしまいましたが、最後に皆で撮った笑顔の集合写真は小石川ラグビー部が1つのチームとしてそれぞれが活躍したという証になったことでしょう。

引退する 3 年生より一言**「しんどかった」****糸哲雄 (3 年生)**

昨年の今ごろ、実はすごく悩んでいました。キャプテンになって 1 ヶ月がたち、そろそろ新チームの形が見えてもいいところに、どのようにやっていけばいいのか？ずっと 1 人で悩み続けて、どんどん悪い方向に進んでしまい、部活を辞めようかと思ったくらいです。自分 1 人のプレーだけでなく、まわりをみてプレーしなければならない。みんなに分らせるために、自分から進んでやらなくてはいけない。キャプテンだから見本にならなければならない。自分がいったことは最後まで一生懸命やり通さなければいけない。いろいろな思いとプレッシャーがあり、精神的にも追いつめられていて相当不安定でした。考えに考えて答えが思いつかないまま、テスト期間に入って、部活のことを少し忘れることができたので、少しだけ心にゆとりを持つことができました。当時は 1 年生 (現 2 年生) の人数が多く、またその時の 3 年生が怪我などで人数が少なくなり、1 年生を試合に出さなければならない状態で、チームが 1 つにまとまっていなかったのも、キャプテンになった時の不安材料でした。やはり「キャプテンがしっかりしていないとチームが崩壊する」といった雰囲気プレッシャーだったと今思います。人を動かす難しさ、口では簡単に言えるが、自分では行動にできない難しさ。現実の厳しさをたくさん学びました。

「道頓堀イン菅平」**木村啓介 (3 年生)**

一体誰から始まり、いつから続いているのだろうか。あの忌まわしき伝統のことだ。

1 年の合宿最終日前夜、他校と一緒に焼き肉パーティーが池のほとりのレストランで開かれた。僕が焼き肉を楽しんでいるところに先輩が「お前ら今からあの池に飛び込むからな。」とやってきた。何だそれはと思った。別に僕は阪神

ファンでもないし、飛び込む理由はどこにもない。焼き肉が終わり、皆が池の周りで叫びだしたのを見て、僕はやられると思い、暗闇へと駆け出した。ふと横を見ると、佐藤もついてきていた。2 人は絶対見つからなさそうな豚小屋のようなものの中へ避難した。途中糸から電話がかかってきて音が鳴って危なかったが、なんとか逃げ切ることができた。僕はこの日、絶対に 3 年間逃げ切ると決意した。

2 年目は足の怪我を理由に適当に逃げた。驚いたのは、去年一緒に逃げた佐藤が入っていたことだ。僕は一瞬思いとどまったが、やっぱり逃げた。罪悪感など屁でもなかった。

そして 3 年目。いつものように焼き肉を食べていると、早くも朝霞西高校の人がきて、糸を連れたいこうとしたが、彼は足の怪我を理由に断固拒否した。あそこで渡辺 (2 年) のフォローが入っていなかったら、血みどろの殴り合いまで発展していただろうことは、想像に難くない。僕はというと、座ってバナナをたくさん食べていて、池の方に行かなかったし、無理に投げ込もうとする人もいなかったの、かなり安全な状態で記録は達成された。

今までにこれを達成した人は何人いるのだろうか。もしかして僕が初めてだろうか。それともそんな話はどうでもよいのだろうか。まあいいや。とにかく、このラグビー部の 3 年間はとても楽しかったし、いろいろなことを学んだ。みなさんいろいろどうもありがとうございました。

「次のトライ」**中西諒 (3 年生)**

僕がこの感想文を書いている 11 月現在、ラグビーワールドカップがオーストラリアで行われています。引退してすぐなので、気になり何試合か見てしまいましたが、コンタクトの激しさ、ランニング、華麗なハンドリング、ボールの継続のうまさには驚かされました。しかしこんなにエキサイティングな試合が行われているのに、テレビで

は去年のサッカーのワールドカップとは扱いがずいぶん違うので、やはりラグビーはまだまだマイナーなスポーツだということを実感させられました。事実、僕も高校に入学するまでほとんど知らなかったし、興味もありませんでした。

小石川ラグビー部に入部して初めは危なくて怖いスポーツだと思いましたが、練習を重ねるたびに、ラグビーの魅力に気づき、試合が楽しみになりました。唯一心残りなのは、入部当初あまりに知識がなさ過ぎて、FW = 攻めるというイメージでFWを選んだことです。結果的には、そのおかげでフランカーという面白いポジションをやれたのでよかったのですが、1度くらいウィングとかやりたかったです。あともう1つ心残りがあるとすれば、最後の試合の時です。最後の試合や結果のことよりも、自分が最後まで諦めないで、集中し続けることができなかったことを1番後悔しています。もちろんこれは体力的な問題ではなくて、精神的な問題です。気持ちのなかで諦めてしまったということが悔しいです。

今後は新しい目標を目指して、勉強をしています。この反省を活かして、最後まで諦めないで、春には最高のトライを取りたいです。

「僕のラグビー観」

小池和夫 (3年生)

ラグビーは突き詰めていけば、1対1の闘争の上に成り立っています。1人が負ければ、周りに迷惑がかかり、ひいてはチーム全体が機能しなくなるのです。

選手1人1人には、守るべき持ち場が与えられていて、それは1対1の勝負では絶対に敵に明け渡してはならない場所、言い換えれば聖域といえるくらい大事なものです。4畳半くらいの幅になる持ち場を守り抜く選手がラグビーでは頼りになるのです。

少々極端なたとえですが、帰宅して4畳半の襖を開けたら、いきなり見知らぬ男が飛び出てきたとしましょう。その片腕にはあなたの大切な愛

娘が抱えられていて、もう一方の手にはナイフが光っています。あなたならどうしますか。男がボブ・サップのような巨漢でも、本当に大切なモノが危険にさらされていたら、無心で飛び込んでいくはずですよ。

それはラグビーにも通じています。持ち場を奪われられないために、目の前の敵に60分強、全力で挑み続けられるものが、競技では真に頼りになる選手なのです。人間そのものの強さが問われるスポーツといっても過言ではありません。

このようなラグーマン魂を、社会に出ても一生忘れないでいたいです。

「初心忘れるべからず」

富山未央 (3年生マネージャー)

初心忘れるべからずということで、入った頃のことを書きたいと思います。入部したとき、私はラグビーのルールさえ知らない状態でした。前にパスを出してはいけないことにまず驚いて、FWとBKの違いについて「FWが攻めて、BKがトライを取る感じかな」と言われたときには、もう訳が分からなくなってしまいました。もちろん今では大体分かってますよ。マネージャーとしての仕事はどれも新鮮で、その中でテーピングは1番やりがいがあり、1番大変でした。見た目では上手くできているのかどうか、よく分からないので、試合前にテーピングをしたときは、試合の間ずっとハラハラしていました。終わった後に「今日のテーピングはよかったよ」と言ってもらえたときは、本当に嬉しかったことを覚えています。

本当は1番印象に残ったことを書こうと思ったのですが、思い出すすべてのことがどれも印象深く、考える程に「本当にラグビー部に入ってよかった」と思い出に浸ってしまい、書き出しの言葉を書くのに2時間、ここまで書くのに1日……。それだけ多くの思い出があるのです。これからも大切にしたいと思うし、現役の人達にもいい思い出を沢山作ってもらいたいと思います。

「感謝」**矢野悠 (3 年生マネージャー)**

本当に楽しかった。私にとってラグビー部での思い出は、この一言に尽きると思います。

私は 1 年生の途中からラグビー部に入部したのですが、ラグビーのことなんて全く分からないし、自分から入部したいと言ったものの、本当にマネージャーなんて務まるのだろうかと不安な毎日でした。何もできない自分に情けなさを感じることも、しばしばありました。しかしそんな時、先輩や友人がいつも側で励まし、支えてくれました。マネージャーを続けることが出来たのも、こういった方々のおかげだと思います。また分からないことばかりだった分、得るものもとても多くありました。すべてのことが新鮮で、新たな発見の連続だったように思えます。

ラグビー部は、私を成長させてくれた場所です。未熟なマネージャーではありましたが、ラグビー部を通して学んだことは、今後の自分の糧になると思います。そしてこれから先も、小石川ラグビー部が自分自身を成長させてくれる場所であることを願っています。

最後に、これまで支えて下さった方々に心から感謝したいと思います。

引退する 3 年生へ一言**「引退する 3 年生へ」****藪上和夫 (顧問・英語科教諭)**

後援会の会報ではあるが「引退する 3 年生へ」ということで原稿依頼を受けたので、3 年生のことを中心にこの 3 年間で簡単に振り返り、贈る言葉としたい。

思えば君たちが入学した年は 2, 3 年生の人数が多く、クラブとしても充実していた時期だったと思う。チームは秋の大会で 3 回戦まで勝ち上がり、ある程度のレベルもあった。当然のことながら 10 月末まで、ラグビーの初心者だった君たちの出番はあまりなかった。4 月には 10 人程いた新入部員 (仮入部も含めるとそのぐらいの人数はいたはず) は少しずつ減り、6 人になってしまった。

そのような状況ではあったが、君たちはコツコツと練習していた。次の代になると君たちの出番は急に増えた。というより試合に出ざるをえなかった。新 1 年生を迎えるまで、16 人しかいない時期もあったので、メンバーのやりくりも大変だっただろう。しかし 1 人ひとりが確実に強く大きくなっていった時期でもあった。この代のチームは、大事な時期に負傷者が多く出てしまい、最後の大会は残念な結果となってしまった。先輩達も辛かっただろうが、君たちも苦しいチーム事情の中いろいろと大変な思いをしたはずだ (今思うとそれもいい経験だったと思う)。

その後、ついに君たちの時代がやってきた。幸い、1 期下の代は人数も多く、試合ができないという心配はあまりしないですんだが、新人戦の頃はとてもラグビーらしいゲームのできるチームではなかった。しかし、その時も君たちなりによく努力していた。3 年生になっても 1 人も引退せず、練習を休む者もほとんどいなかった。その努力が報われる時が来た。山田先生の着任だ。ラグビーの技術・知識とも豊富で、指導力も素晴らしい山田先生の指導を受け、君たち、そしてラグビー部全体もどんどん成長していった。ゲームでは、見る側も楽しく感動するラグビーができるようになっていった。最後の早大学院との試合、敗れはしたが 2 トライした。今後の人生にもつながる 2 トライだったと思う。

私自身、君たちの学年の担任をしていることもあり、愛着のある学年だった。顧問の 1 人として、また学年の教員の 1 人として最後に一言。これからはラグビーに限らず、いろいろな勝負事が待ち受けているだろう。それぞれの勝負に自分のスタイルでノーサイドの笛まで頑張ってもらいたい。

「3 年生へ」**國上真由美 (2 年生マネージャー)**

入学して間もない頃、私をラグビー部へと勧誘してくれたのは今の 3 年生でした。正直ラグビーなんて全く分からなかったもので、自分がマネー

ジャーをやるなんて考えてもみませんでした。私にそのチャンスを与えてくれた先輩達を今はとでも有り難く思います。

3年生と一緒に過ごした時間はとても楽しいものでした。私の代はマネージャーが1人だったので、最初はやはり不安でしたが、先輩達はそんなことを感じさせないくらい、いつも明るく優しく接してくれました。そして、多くのことを教えてくれました。特にマネージャーの先輩からは、仕事はもちろんですが、それ以外にも「部員を想う心」のようなものを教えて頂いた気がします。きっと、部員のことを大好きな先輩達がいなければ分からなかったものであり、もし知らなければ、私は部活を続けていなかったかもしれません。今まで言った事はなかったけれどすごく感謝・尊敬しています。辛くて泣いた時もありましたが、先輩達が支えてくれたから頑張れたのだと思います。そして、部員達の頑張っている姿を見たから、私も頑張ろうと思えたのだと思います。

私達2年生の代となった今、先輩達以上に頼りになる、頼られる存在になりたいと思います。最後になりましたが、3年生の皆さん、本当にお疲れさまでした！皆、大好きです。

新チーム発足

「新チーム発足にあたり」

山田憲永 (顧問・体育科教諭)

新チームとなり、はや2ヶ月が過ぎました。3年生の偉大さを2年生、1年生は実感し、自分たちも3年生に一步でも近づき追い越せるよう、また、今年の忘れ物(私立からの公式戦勝利)を取り戻すために練習に取り組んでいます。

現チームの目指すものは変わらず展開ラグビーです。3年生が抜けましたが、BKの多数は2年生だったため、展開力低下を避けることができ、さらなる上積みが期待できます。春から大きく成長したBKですが、まだまだ修正するポイント(スペースの作り方、ディフェンスの確認など)があります。その点をBKのメンバーもはっきりと理

解し、日々の練習で克服しようと努力を続けています。

この様にBKに関しては一定のレベルからスタートできますが、FWに関しては半数が入れ替わり、ユニットとしての動きに若干の不安があります。しかし、FWも2年生を中心に、“FWはBKへのボール出しが一番の仕事”、ということを自らが前提とし、練習に励んでいます。その成果としてFWの走力がアップし、これからが非常に楽しみです。

最初の公式戦となる新人戦では、FWとBKのバランスが取れるかどうか、大きな鍵です。バランスが取れたときには、FW、BKがグラウンドを縦横無尽に走り回り、プレーしている選手たちはもちろん、周りで見ているのも楽しい、おもしろいラグビーで勝利を掴むことができるでしょう。

一步、一步、確実に前進している部員たちの応援を、今後もよろしくお願いいたします。

「新チーム発足」

藤沼光太 (主将 2年生)

新チームのキャプテンに任命されました藤沼光太です。自分の今年の目標は、体重を80kg台にのせたいことと、ウィング並のステップが出来るようになることの2つです。今部員は1年生9人、2年生12人、マネージャー3人の計24人で活動しています。そのうちフォワード11人、バックス10人です。前の代では、6人中4人がフォワードだったので、最近の足立高校との練習でその大きさを実感しました。しかしそれはすべて代替わりの際には感じる事なので、これから強く、勝てるチームを作り上げていきたいと思います。

自分の中で理想とするチーム像は、バックスで点を取れるチームにしたいと思います。そのためにはフォワードの完璧な球出しとフォロー、フィジカルとスキルの向上が必要になってくるので、今後の練習はつらいものにしていくつもりです。バックスも点を取るために、今はノックオンやつ

まらないパスミスが多いので、正確なボール回しができるようにさせていきます。しかし今 1 番チームでうまくならなければいけないのはオフェンスよりもディフェンスです。守り切れればいつか必ずチャンスが訪れると信じています。しかし今は恐怖感があるのか、あまり前に出てディフェンスをしていません。その点の修正が今後の課題です。フォワードも体力・走力が不足しているため、外に振られても大丈夫なように、前述通りフィジカル面の向上を目指していきます。

チームの目標は、春には関東大会に出場、秋には久我山や東京を倒して、花園に行きたいと思っています。その目標を達成させるためには、センター・ウィング間のコミュニケーションが鍵になるでしょう。

1 年間このチームで頑張っていきます。皆様応援よろしく願いいたします。

「インテンション」

武田健志 (FW バイス 2 年生)

僕達は早稲田高等学院との試合に完敗しました。原因はいろいろありますが、その中で大きな原因は FW のスタミナ不足が挙げられます。試合の最後の方では足が止まってしまい、BK のサポートができなかった部分が多々ありました。これはひとえに FW の努力不足、怠慢という他ありません。この先の試合に勝つためにも、走り込みは必ず行っていかなければなりません。もう 1 つ大きな敗因を挙げるとすれば、接点でのターンオーバーです。これは FW の当たり負けが原因です。これからもっと強い相手と戦っていくにはコンタクトの強化は必要不可欠です。日々の練習で積極的に生身でのコンタクトをやっていきます。また同時にウェイトトレーニングもこなさなければなりません。小石川の FW はあまり身体が大きくありません。これを克服するためにも、ウェイトトレーニングも積極的に行う必要があります。しかし今のチームにウェイトトレーニングのために割ける時間がほとんどありません。つまり

自主トレの時間しかありません。強制はしません。他人にやらされるトレーニングほど意味のないトレーニングはありません。トレーニングすることの意味を教え、積極的にトレーニングする雰囲気、環境を作っていくのが僕の仕事です。

最後に 1 つ言いたいことがあります。それは早高院戦の後に FW の 1・2 年生で誰も泣いていなかったということです。別に泣けという訳ではありませんが、僕はあの試合に負けて悔しさを感じませんでした。苦しさを感じなかった自分に怒りが湧きました。それは日頃の練習の怠慢、勝ちたいという意識が足りないからではないでしょうか。あの時まで僕達はいつも 3 年生に頼り、ただ何となくラグビーをしていた気がします。人にやらされるのはラグビーではありません。自分の中からわき出る意志でプレイするのがラグビーだと思います。絶対に相手に負けないという強い意志を持ち、BK を活かしてあげられる FW になりたいと思います。皆頑張ろう！

「BK バイスとして」

後藤史孝 (BK バイス 2 年生)

現在小石川の BK は 1 年生が 4 人、2 年生が 6 人の合計 10 人で活動しています。リザーブが 3 人という厳しい状況ですけど、少ないなりに充実した練習をしています。

昔から小石川の BK は「展開ラグビー」という伝統あるスローガンを掲げており、今回新たに「FW 並のフィットネス強化」という 2 つも目標を立てて、これから新チーム作りをしていこうと思います。なぜ新しく「FW 並のフィットネス強化」という目標を立てたのかというと、私立の強い学校と試合をしても、けが人が続出したり、当たり、タックルも弱く、いくら「展開ラグビー」といっても、フィットネスがあつてこそ成り立つものだということを改めて思い知らされたからです。確かに僕達のチームは身体が小さく、経験も浅いですが、人 1 倍強くなりたいという気持ちは誰にも負けません。この気持ちをいつも持って

練習や試合に励みたいと思います。

新チームになって 3 年生が 2 人抜けましたが、ほとんど前のメンバーと変わらず、他の学校（特に都立）に比べて有利だと思います。しかし私立の場合、控えが厚く、戦力的に大して下がらないのが現状です。それに勝つためには代替わりの最初の時期が大事です。新人戦までに基礎、すなわちフィットネス、ハンドリングをしっかりと固め、それから応用的な動きに取り組み、戦術的な動きを身につけたいと思います。

そしてこれから新チームが強くなるためには OB の皆さんの力がどうしても必要です。時間がある時は是非来てください。

最後に、BK バイスとして頑張ります。よろしくをお願いします。

連載 OB コラム

今号より新企画と致しまして、OB の方によるリレートークのコーナーを作りました。OB の方に自由に書いていただき、最後に次号の執筆者も指名して頂く連載ものです。今号は昭和 52 年卒の石森愛彦さんに書いていただきました。ありがとうございました。次号は昭和 53 年卒の中村暢幸さんに書いていただきます。よろしく申し上げます。

「7 月 12 日に参加して」

石森愛彦（昭和 52 年卒）

初めての方々、初めまして。私は昭和 52 年卒のすごい左ウィングだった者です。どのくらいすごかったかと言うと、例えば小石川高校ラグビー部史上初の 100 点ゲームである都立日比谷高校戦で 1 試合 8 トライですぜ。そんな私ですが、ラグビーは高校時代だけでその後のスポーツは、たまの草野球くらいで運動不足全開の 20 数年を送っております。しかし、今年は 4 月の藤田幸康先生の退官祝賀会や東大ラグビー部の T シャツ製作などラグビー関係の行事が勢いで、7 月 12 日にあった OB 総会に、ちゃんと着替えを持って出かけた

のでした。もちろん現役との試合に出してもらおうなどは考えておらず、試合前の練習だけ参加して、20 数年ぶりに楯円球に触ってみようと思っていただけでした。改築されて昔の面影など全く無い小石川高校に着いてみたら正門前に救急車。何部の誰がどうなったのかは知りませんでした。が、「ほら、絶対に調子に乗りすぎるなよ！」と改めて自分に言いました。なにしろそのときの私は 1 週間後にリュートのコンサートを控えて（私はリュート奏者でもあります。）救急車は言うまでも無く、突き指してはならぬ身だったのです。

その日は高校時代に私や斎藤守弘君の担任だった山口公也先生も散歩がてらに見に来ており、現役対 OB の試合が始まると見学している私に「なんだ、キミは出ないのか」と言うので、「ラグビーはいきなりはできませんよ、危なくて。テニスみたいに遊びでできるスポーツと違いますよ」と答えました。それなのに試合も後半に入り残り 5 分となった時に、ウィングをやっていた大先輩のラグビー野郎、川口さん（この人に限り常に現役）が、「キミ、ちょっと代わるか？」と仰ってください、そうしたら嬉しくなっちゃってグラウンドの中に走ってしまいました。残り 5 分だったので、ボールタッチした時には「やった！触った！」とそれだけで大満足。しかしその試合が終わってから、それにいられなかった現役の為なのか、「あと 15 分 1 本」みたいな試合をすることになり、流れでそちらにはフル出場してしまいました。ハーフが私の 1 年下の中村君だったので気を使って私にどんどんパスを出してくれました。高校時代、得意技にしていたチョコパンもやってみたり、明らかに狙われてパントをけられて取れなかったり、楽しかったー。終わって気づくとひざから血が出ていて、そんなことさえ「久しぶりー」と嬉しいのでした。

納会になってからやってきた同期の平耕一君は「えーっ、イシモリ、試合に出たの？！よくやったなー」と言ってくれ、それから「えーっ、川口さんをさげて出たのかよ！それだけはやっちゃ

いけない事だぜー」とも言いました。だからあの日、「なんだよ、パンツぐらいちゃんと取れよ！」と蔑みの目で見ていた若手 OB 諸君、君達もあと 20 年もすればブヨブヨした腹をさすりながら「あの人、45 歳でいきなり来てあれだけ走れたんだからすごかったんだなー」と、そのときにきっと私を尊敬するでしょう。

尚、このコーナーはリレー形式ということなので、私にたくさんパスを出してくれた昭和 53 年卒の中村君にふりたいと思います。彼はアメリカで日本人チームに入っていたり、現在ラグビースクールのコーチをしたりだそうです。久々に会った彼は高校時代よりずっとラグビーが上手になっておりました。

理事会よりお知らせ

小山和泰前会長の小石川賞受賞のお知らせ

去る 5 月 25 日に小石川高校 85 周年イベントが盛大に行われました。今回特別企画として設けられました小石川賞開拓賞に小山和泰前会長が選ばれましたので、お知らせ致します。

学年幹事の設置のお知らせ

平成 15 年度より連絡体制強化のため、学年幹事を作りました。以下のように各学年 1 名、ないし 2 名の方々になっていただきました。まだ学年幹事が決まっていない学年もあります。なっていただけの方がいらっしゃいましたら、是非編集後記にありません連絡先までご連絡ください。また、昭和 50 年卒以前の代につきましては、創部 50 周年時に決めました幹事の方々に引き続き、お願いしたいと考えております。その方々には、改めましてご連絡いたしますので、よろしく願いいたします。(次号の紙面上でお名前を列記させていただきます予定です。)

昭和 50 年度	
昭和 51 年度	小泉 良紀
昭和 52 年度	平 耕一
昭和 53 年度	本澤 豊

昭和 54 年度	渡辺 将
昭和 55 年度	新保 泰広
昭和 56 年度	矢島 秀一
昭和 57 年卒	森林 滋
昭和 58 年度	藤枝 昭裕
昭和 59 年度	渡辺 豊
昭和 60 年度	
昭和 61 年度	道家 竜馬 花島 毅
昭和 62 年度	原 敬一郎
昭和 63 年度	中村 浩一
平成元年度	嵯峨山 聖基
平成 2 年度	井上 浩志
平成 3 年度	栗村 賢司
平成 4 年度	
平成 5 年度	菅原 賢
平成 6 年度	尾崎 公律
平成 7 年度	浜田 尊之
平成 8 年度	
平成 9 年度	
平成 10 年度	
平成 11 年度	山崎 陽一郎
平成 12 年度	武藤 拓馬
平成 13 年度	島崎 将成
平成 14 年度	川崎 智康
平成 15 年度	齋藤 十五

公式ホームページ紹介

円滑な情報伝達と会員の親睦を図るために小石川高校ラグビー部後援会のホームページを開設しております。ホームページのアドレスは <http://www.geocities.co.jp/Athlete-Samos/8115/> です。ホームページ上の掲示板には OB、OG をはじめ、現役部員も書き込んでいます。1 度ご覧になり、近況や後援会に対するご意見、現役生への励ましなどを是非お書き下さい。

また現役の練習スケジュールも載せておりますので、ぜひ練習日程を確認していただき、グラウンドに足をお運び下さい。

平成 15 年度会費納入のお願い

年会費は後援会規約第 6 条により社会人は 5000 円、学生は 3000 円となります。

まだ納入されていない会員の方は、この機会にお振込み頂きますようお願いいたします。

会費振り込み方法は以下の通りです。

郵便局

口座番号：001100 - 0 - 591395

加入者名：東京都立小石川高等学校ラグビー部後援会

銀行

みずほ銀行（旧富士銀行）駒込支店

普通預金

店番号 559 口座番号 0451272

小石川高等学校ラグビー部後援会

後援会メーリングリスト参加のお願い

会員間の情報交換及び試合日程のお知らせなどのために後援会のメーリングリストを作成いたしました。参加希望の方は、下記の URL にアクセスしていただき、参加申し込みをしていただきますよう、お願いいたします。

<http://www.egroups.co.jp/group/>

koishikawa rugby3

住所不明者

(敬称略)

旧顧問	内藤 敏明
昭和 26 年卒	桜井 裕
昭和 28 年卒	藤井 總明
昭和 29 年卒	神田 孝行
昭和 30 年卒	近藤 弘
昭和 30 年卒	生井澤 尊
昭和 30 年卒	小林 庸治
昭和 31 年卒	勝部 照雄
昭和 33 年卒	郡司 裕美
昭和 33 年卒	佐藤 芳之
昭和 34 年卒	山岸 萬男
昭和 35 年卒	戸田 元仁
昭和 35 年卒	前田 忠昭
昭和 36 年卒	鈴木 俊郎
昭和 36 年卒	竹内 誠
昭和 37 年卒	吉野 毅
昭和 37 年卒	杉本 優
昭和 37 年卒	斎藤 正宏

昭和 37 年卒	伊藤 博利
昭和 37 年卒	船越 丈生
昭和 38 年卒	内田 恒次
昭和 38 年卒	鈴木 健
昭和 38 年卒	野口 順三
昭和 38 年卒	清水 正一
昭和 39 年卒	金沢 洋一
昭和 39 年卒	服部 良一
昭和 39 年卒	西尾 征二
昭和 40 年卒	宮田 光彦
昭和 41 年卒	長谷川 路夫
昭和 42 年卒	三沢 秀光
昭和 42 年卒	中村 喜昭
昭和 43 年卒	吉田 隆治
昭和 44 年卒	蛭田 真一
昭和 44 年卒	柳原 彰一郎
昭和 45 年卒	成澤 淳
昭和 46 年卒	堤谷 正俊
昭和 47 年卒	小林 純夫
昭和 49 年卒	石橋 秀敏
昭和 49 年卒	小泉 洋之
昭和 49 年卒	幸島 敏
昭和 50 年卒	荒井 優二
昭和 50 年卒	吉田 益美
昭和 50 年卒	松丸 晴美
昭和 50 年卒	鈴木 博
昭和 51 年卒	松本 均
昭和 53 年卒	斎藤 咲平
昭和 53 年卒	永田 利樹
昭和 54 年卒	越田 明宏
昭和 54 年卒	加藤 明洋
昭和 54 年卒	佐藤 敏明
昭和 54 年卒	竹内 宏
昭和 55 年卒	岩淵 康文
昭和 55 年卒	早川 公三
昭和 55 年卒	徳川 直久
昭和 55 年卒	手塚 正時
昭和 55 年卒	大多和(森) 節子
昭和 56 年卒	泉 達也
昭和 57 年卒	佐藤 隆
昭和 57 年卒	佐々木 清子
昭和 58 年卒	斉藤 隆憲
昭和 58 年卒	荒井 隆
昭和 58 年卒	矢澤 敦彦
昭和 58 年卒	桶谷 和信
昭和 58 年卒	阿部(高橋) 秀子

昭和 58 年卒	矢作 真樹
昭和 59 年卒	石井 義則
昭和 59 年卒	遠藤 誠
昭和 59 年卒	長澤 裕
昭和 60 年卒	安達 祐二
昭和 60 年卒	江尻 剛
昭和 60 年卒	花沢 真人
昭和 60 年卒	平石 憲一
昭和 60 年卒	三村 和成
昭和 60 年卒	水野 秋人
昭和 60 年卒	佐藤 一生
昭和 60 年卒	須田 大介
昭和 61 年卒	坪井 希恵
昭和 61 年卒	山本 浩司
昭和 61 年卒	黒柳 裕久
昭和 62 年卒	岩佐 和典
昭和 62 年卒	高岡 由紀子
昭和 62 年卒	山田 二郎
昭和 63 年卒	菅野 悦也
昭和 63 年卒	鈴木 秀治
昭和 63 年卒	高橋 利典
昭和 63 年卒	赤尾 玲子
昭和 63 年卒	小笠原 裕司
平成元年卒	宮本 健
平成元年卒	吉岡 善樹
平成元年卒	鴻谷 絵里
平成元年卒	小室 文也
平成 2 年卒	斉藤 慎也
平成 2 年卒	高橋 剛
平成 2 年卒	橋本 智
平成 3 年卒	山田 裕之
平成 3 年卒	岩崎 幸司
平成 4 年卒	山崎 孝子
平成 5 年卒	高野 信一郎
平成 5 年卒	小山 慎一郎
平成 5 年卒	平野 直人
平成 5 年卒	羽立 善晴
平成 6 年卒	佐藤 辰彦
平成 6 年卒	佐藤 大喜
平成 6 年卒	酒井 くみ子
平成 7 年卒	丸山 俊文
平成 7 年卒	榎 達也
平成 7 年卒	加藤 拓磨
平成 8 年卒	伊藤 毅
平成 8 年卒	黒沢 大輔
平成 8 年卒	富田 理紗

平成 9 年卒	梅谷 哲也
平成 9 年卒	五百蔵 孝信
平成 9 年卒	井口 敦
平成 9 年卒	山崎 陽子

以上の皆様の住所をご存知の方、引越し等で住所を変更される方は編集後記にあります連絡先までお知らせください。

編集後記

サッカー人気の上昇、少子化の進行等により、部員集めが困難になり、都立でもラグビー部の廃部は毎年のことになり、私立でも 10 人制への移行を余儀なくされているのが現状です。このような現状のもと、都立で 15 人制を今も継続してられる小石川ラグビー部は素晴らしいと思うし、また恵まれている環境にあると言えます。今回初めての編集作業になりました。今までは読む側だった人間が編集側になってみるとあらためて編集サイドの皆様方の苦労を実体験とともに確認することができるものでした。本報によって現役部員の活動を正確に報告し、また小石川ラグビー部との架け橋になってくれることを望む次第です。

末筆になりましたが、本報の編集にあたっては、お忙しい中、原稿執筆などご協力頂いた皆様にご場をお借りして深謝申し上げます。

(編集担当：野渡寛介(平成 14 年卒))

なおこの会報についてのご意見、お問い合わせ等は、以下の連絡先までお願いいたします。

<連絡先>

武藤拓馬 (平成 12 年卒)

住所:〒175 - 0082

東京都板橋区高島平 7 - 20 - 10 - 404

TEL : 090 - 6140 - 8356

E-mail : brief_schicken@hotmail.com

次回の会報は平成 16 年 5 月発行の予定です。

平成 14 年度決算報告(平成 14 年 7 月 1 日~平成 15 年 6 月 30 日)

収入の部		予算	決算
	後援会年会費	¥200,000	¥599,000
	寄付金	¥0	¥232,290
	懇親会残金	¥0	¥34,194
	前期繰越金	¥919,094	¥ 918,929
	利息	¥10	¥36
	合計	¥1,119,104	¥1,784,449

支出の部		予算	決算
	夏季合宿現役補助	¥200,000	¥200,000
	夏季合宿 OB 補助	¥100,000	¥45,000
	大泉定期戦費用	¥30,000	¥30,000
	通信費	¥120,000	¥95,050
	現役保険料	¥15,000	¥15,000
	学生強化費	¥80,000	¥47,484
	振替手数料	¥3,200	¥9,040
	60 周年積立金	¥100,000	¥100,000
	借入金返済	¥100,000	¥100,000
	予備費	¥370,904	¥41,630
	合計	¥1,119,104	¥683,204
次年度繰越金		¥1,101,245	

平成 15 年度予算 (平成 15 年 7 月 1 日~平成 16 年 6 月 30 日)

収入の部		
	後援会年会費	¥600,000
	その他収入	¥10
	前年度繰越金	¥1,101,245
合計	¥1,701,255	

支出の部		
	学生強化費	¥350,000
	夏季合宿 OB 補助	¥50,000
	大泉定期戦費用	¥70,000
	通信費	¥100,000
	現役保険料	¥15,000
	振替手数料	¥7,000
	60 周年積立金	¥100,000
	予備費	¥1,009,225
合計	¥1,701,255	

平成 15 年度小石川高校ラグビー部後援会役員

会長	昭和 42 年卒	川口 明
理事長	昭和 52 年卒	斎藤 守弘
副理事長	昭和 57 年卒	森林 滋
理事	昭和 41 年卒	俵 一雄
	昭和 44 年卒	小川 久
	昭和 45 年卒	南 高之
	昭和 45 年卒	伊藤 睦
	昭和 52 年卒	平 耕一
	昭和 52 年卒	田代 秀隆
	昭和 54 年卒	渡辺 将
	昭和 58 年卒	清野 健一
	昭和 58 年卒	藤枝 昭裕
	昭和 58 年卒	若林 俊康
	昭和 59 年卒	木村 智幸
	昭和 59 年卒	渡辺 豊
	昭和 61 年卒	嵯峨山 高志
	昭和 61 年卒	道家 竜馬
	昭和 61 年卒	花島 毅
	昭和 62 年卒	原 敬一郎
	昭和 63 年卒	市橋 謙一
	昭和 63 年卒	氏森 毅
	平成元年卒	嵯峨山 聖基
	平成 2 年卒	葛岡(澤田) 律子
	平成 3 年卒	松崎 浩史
	平成 4 年卒	伊藤 悟光
	平成 5 年卒	菅原 賢
	平成 6 年卒	泉 晋
	平成 7 年卒	堀川 剛史
	平成 7 年卒	栗橋 貴和子
	平成 8 年卒	黒沢 大輔
	平成 9 年卒	井上 幾仁
	平成 12 年卒	井上 喜博
	平成 12 年卒	武藤 拓馬
平成 12 年卒	山本 裕輝	
平成 13 年卒	島崎 将成	
平成 14 年卒	川崎 智康	
平成 14 年卒	野渡 寛介	
平成 15 年卒	齋藤 十五	
平成 15 年卒	志村 匡仁	

(は新任)